

# 今期の業況全業種とも悪化傾向に 特に製造業の悪化が目立つ

当所では、藤枝市内小規模事業所の経営動向を把握するため、四半期ごとに景況調査を実施しています。

平成26年7月～9月期の調査がまとまりましたので、概要を報告します。

※本調査は、製造業・建設業・卸売業・小売業・サービス業の5種200社を対象に行っています。今回の回収率87.5%

【主要な表現について】○業況判断：調査対象企業が自らの業績に下した判断

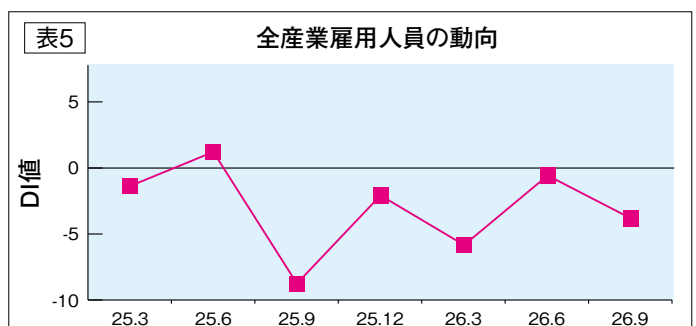
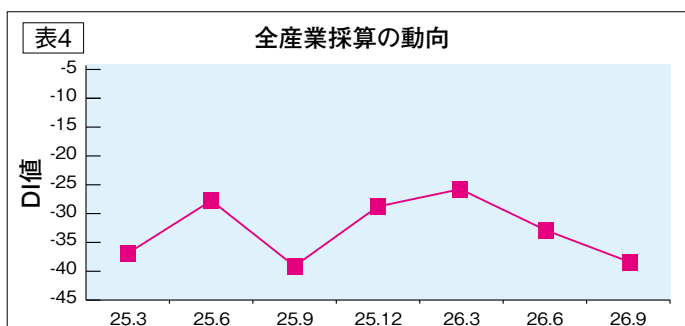
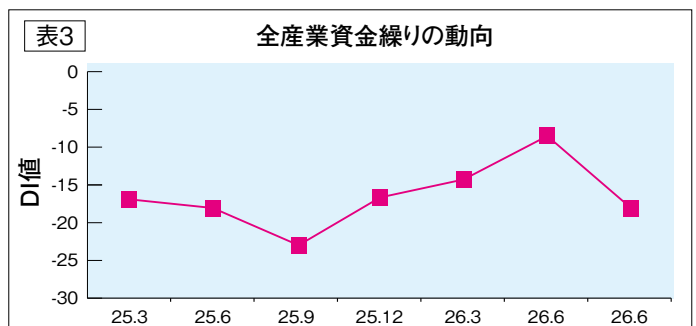
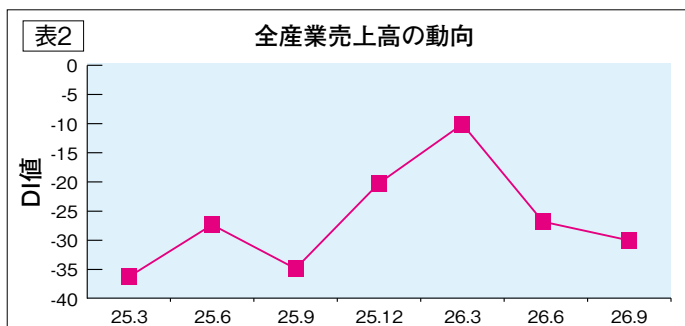
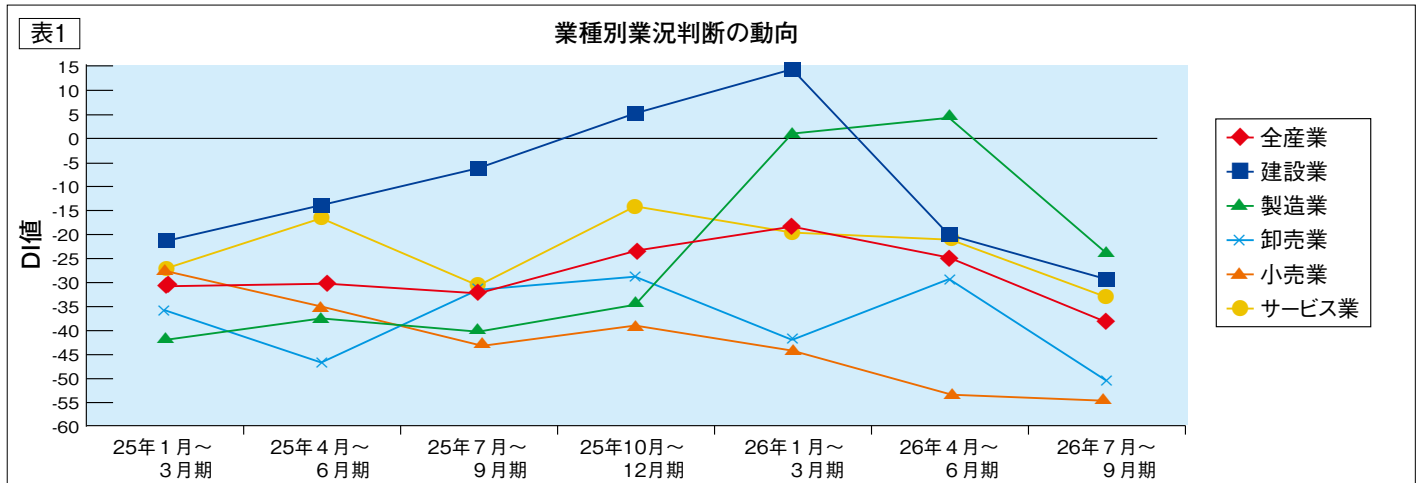
○DI値：(増加・好転と回答した割合) - (減少・悪化と回答した割合) 悪化すればするほどDI値は▲(マイナス)になります。

## 管内全産業の業況

業況判断の動向(表1)：全産業の業況は前期(H26年4月～6月)のDI値より▲13.1ポイント悪化。特に製造業は、DI値3.0と2期連続で好調に推移していたが、今期は3期ぶりにDI値が▲24.2と落ち込んだ。経営上の課題は、原材料価格の上昇や需要の停滞等の回答が多かった。

全産業売上高の動向(表2)：前期(H26年4月～6月)のDI値は▲26.7であったが、今期も▲30.1と悪化傾向にある。消費税増税による買い控えの影響が考えられる。

全産業雇用人員の動向(表5)：改善傾向にあった雇用人員の動向は、今期のDI値▲3.8と悪化した。主な原因は、卸売業、建設業がマイナスとなっているのが主要因になっていることである。



問合せ先 藤枝商工会議所 経営支援課 Tel.054-641-2000